

『歴史ある地域での新たなまちづくり - 富田林寺内町 - 』

講師：横関正人（建築家・NEOGE0 代表）

〔記録：宮川 武〕

横関です。

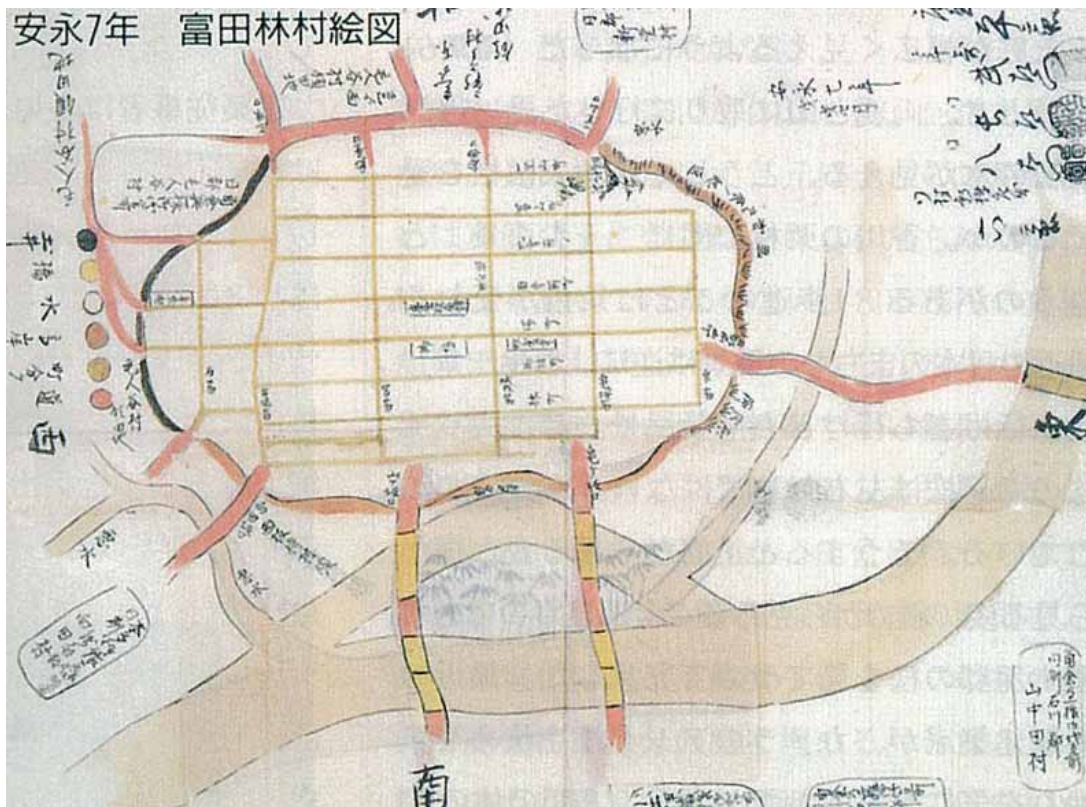
僕は、元々まちづくりというよりも、設計をやってきた中で、たまたま富田林の寺内町で住宅を設計する機会があり、そこからまちづくりに係っていく機会を得ました。

「歴史ある地域での新たなまちづくり」ということで、富田林の寺内町が、重要伝統的建造物群保存地区に指定されていることで、ご存知の方も多いと思いますが、まずは富田林の地理的などころからお話します。

周辺は、近鉄の富田林駅の西側が新興住宅地で、東側が古くからの市街地です。周辺では、古墳など歴史的なものが残っていて、近つ飛鳥などもあります。地域的には昔から歴史のあるところですが、寺内町は、近鉄富田林駅から歩いて5分の場所です。

安永7年の古地図（写真1）では、昔は元々、戦国時代にお寺を中心とした町で、防衛するために4つしか入口があったそうですが、現在は入口も増えています。

寺内町は、歴史的な建造物が残っていて、国の重要文化財の指定を受けた旧杉山家もあり、少し中を歩けば古い建物が残っているのがわかります。だいたい400m×300mの範囲の町です。



（写真1）

寺内町の中央に位置する城之門筋は、日本の道100選に選ばれた道で街並みが良く残っています。沿道の興正寺には、桃山時代に建築したといわれる門が残っています。寺内町の中には珍しいものとして三層の蔵があったりします。

道路が少しだけずれているのは、戦国時代に防衛するために半間とかずらしています。これは、少しだけ『あてまげの道』というもので、各所に配置されています。

寺内町では、町屋が修復されていますが、古いものだけではなく、昭和の初期のもので、銀行とかの近

代建築なども残ってしまっていて、当時、お金持ちの方などが新しい様式を取り入れられたりしています。

このような状況で、寺内町では、伝統的建造物の調査がされていて、内容は市のホームページにも掲載されています。また、修復のための許可基準もあります。

ここからは、僕が関わってやっていったものですが、最初にお話したように、僕は、住宅の設計から、この寺内町で仕事をするようになり、いろいろと関わってきました。そして、その頃に併行して、蔵を改造したりとか、商店街のゲートを造ったりとかしています。他には、長屋を改造した陶芸工房とか、僕の住んでいる家をイベントの時に開放したりしています。

一番最初に設計した住宅は、外観は街並みに合わせる形で造りました。この地域は古い町なので、若い方達が結構外に出て行かれて、年齢層が高くなっていますが、そういう若い方でも住みやすい家が造れるんですよと提案しようよということで、造った住宅です。13年ぐらい前ですが、その時には、河内長野に森林組合があって、そこが国などの補助を受けて木材を売っていきこうとしているときで、木材を供給してもらいに直接お願いに行きましたが、その頃は木材を手に入れるのに、ものすごく苦労しました。売る側が山の人なので、木を切ってくるのは必要なときだけという考え方で、1週間後に上棟式があるといっても今から木を切り出すというようなやり方でした。

間口の細長い敷地の住宅の仕事では、いわゆる寺内町でイベントとかをすることを当時はまだしていないとき、街角ギャラリーとか、そういうことをやったりとかできるように、補助金とかも受けるので、町に開放できる住宅を追求しました。そして、クライアントにもそのようにお話しして、カーポートなど使い方によって、奥まで使っても良いよと、というようなやり方で使うことを提案できないかと、内部は町屋の暗い雰囲気じゃなくて、それを明るい感じにしたいと、内部に居てもそういう感じがするように造りました。そして、こういうのができた段階で地域の人に見てもらったりして、また評価してもらおうことをしました。オープンスペースである駐車場兼庭スペースでは、こういうところを利用して切り絵展をしてもらったりとかしました。

市の補助を受けてやったことですが、建売住宅なんですが外壁に漆喰を塗って、それなりの感じの建物を角地に造ったりとかして、この当時は、補助金も結構付いたので、建売住宅でもそういう風なことをしていました。オープンスペースは全体を開けっ放しにして使ってもらったりとか、結構奥まで使えるとか、そういうイメージで、開放的な雰囲気で作るようにして、使ってる床材とか、構造材とかは、全て河内材でやっています。

それから古い煉瓦を買ってきて自分達で積んだりして造りました。壁は、プラスターを塗ってるだけなんですけど荒々しく造っています。

全体が、開放的な空間になっているのと、表から見たら切妻が立ち上がっています。

今、紹介した住宅をやりながら、いろいろオープンハウスとか、地域にチラシを蒔いたりとかして、たくさんの方に来てもらったりとかしながら、工事の途中にあった話なんですけど、昔造り酒屋であった家に元々酒蔵があって、蔵を使わなくなって印刷所とかに貸しておられたんですけど、それが出てきたので、そこにボードとかクロスを張って何処か貸せるのなら貸したいという話が当時ありました。実際見に行くと立派な梁とかがあるのにそれを隠してしまうのはもったいないので、市役所の人と共にここをギャラリースペースにしてもらえないかという提案をしていきました。

内部は、柱があって、梁があるんですけど、それが浮いていたりして、構造的にはなっていない状態でしたが、提案は、1階と2階を別々に使ったり、一体として使えるようなギャラリースペースにして、1階を土間的な空間に酒樽をイメージした壁にして、そこから中に入ると階段があって、そういうのを造ったらどうかと提案をしました（写真2）。



(写真2)

外は元の形に戻して、中は、入口だけ造って、床は元々、叩き仕上げにしたかったんですけど、こういうところに住んでおられる方は、他の部分でもそのようなところがあるので、いやだということで、逆に新建材もいいと思っておられる方だったので、土に埋めたら土に変えるタイルができたところで、それを利用して土間を造りました。それで屋根とかは、構造をまっすぐもどしてからやり直してます。裏から見た壁は珪藻土で、ここも梁を架け替えて河内材を使っています。1階から見るとトップライトになっていて、蔵の外壁を中に利用しました。実際にこの壁の向こうには都市計画道路が走っていて、都市計画道路ができるから蔵をつぶされたいのですが、その都市計画道路は廃止になっていて、それも残していたらよかったのにとおもいます。だから、この部分は、外側にいくと空スペースになっていて、少し街並みを壊している風になっています。それから、これは煙出しの屋根があって、下は倉庫になっていて、上のスペースが無駄なので、そこを使って瞑想室にしました。これはギャラリーとして使うということで造って、当主はこの部屋をかなり気に入っておられて、応接室みたいにして使っています。それで、しばらく使っていなかったのですが、当主が亡くなられて、この2～3年前からまたギャラリーとして使われています。

この辺りの仕事は、全部連動してやっていたので、説明しますが、これは、本町通という商店街があって、これもどこでもありがちなお店としてはシャッターがほとんど下りていて、店として使っているところは少ないですが、当時本町通と書いたクラシックの看板が、台風で飛んでしまって、このゲートをやり変えようという話が出ました。それで、地区内の別の中央商店街というところでは、新しいゲートに変えていまして、新しいといっても普通に中に照明を仕込んでボックスにしたものに「ようこそ中央商店街へ」と書いてあるぐらいのもので、最初はそれに負けないように造りたいということで、話に来られましたが、もっといいものを造った方が良くないかということで、その時に商店街の人と打合せをして、そういう話をして具体的にOKが出て、ゲートをやりかえることになって、まあ少し数奇屋のものをイメージした鉄の門を造っています(写真3)。



(写真3)

これは遊具を作っているプレスの人に頼んで造りました。これはこの中に入って行くに従って歴史がどんどん古くなり寺内町に行くというイメージを伝えられるようなものにしたいということと、当時の市長さんに文字を書いていただいて、それを使いました。本町通りというところにも古いお店とか町屋とか残っている状態です。ゲートができた時には、オープニングでテープカットをしています。

また同じく併行して、2軒の長屋を改造して、陶芸工房とギャラリースペースを造りたいという方が来られて、また、土地と建物を持っておられる方と話をし、それならもう少しいいものを造ろうよということで、造ることになりました。

これはその建物を開放する前ですが、2軒の長屋です。丁度その裏にフラットの鉄骨2階建ての建物が建ってました。道路もL型に入って行くような道路で、真正面に見えるものを取っ払ってしまって、ここは伝統的建造物なので、手前の建物を残して、保護しようということで、話を進めて行きました。ここはその前にも修景をしていたようで、また、残すといっても本当に残してそれだけの価値があるのかというようなものを残してほしいという話があって、見ていただいたらわかるようにぼろぼろでした。住んでおられる方は、瓦職人さんで、余った瓦を持って帰って来られて、上に乗っけたりして使っていたらしいです。雨水でぼろぼろになっている状態でした。奥の部屋は一度火事で燃えた後があって酸化していたりしてました。これを、ギャラリースペースなどにしています。道路から入っていく時に中に自然と入って行けるように造りました。それで、町屋をそのまま残すのはそれでも良いですが、通り土間とかあって、一段上がっているような感じだと、結構、人が入ってくるんですけども、玄関があって靴を脱いで入るとなると、なかなか人が入ってくることがなくて、それをスムーズにもっていけるように作りたいなという思いで造りました。そして、これはできたときに、陶芸家と僕と彫金をやっている人と、3人展ということ最初にやっています。今はここにパーゴラとか作っています。

こういうことをしながら、2003年に、クラフトアートフェアというのをやろうということになりまして、寺内町を好きな人とか、地元でいろいろなことをやっている人とか、陶芸家の人とか、市役所の人にもやってもらって、実行委員会を設立して、昔は寺内町は職人さんも住んでた町で、結構クラフト的な町という位置付けがあるので、そういうフェアをしようということになり、講演会的なことをし、通常は皆さん住んでますので、重要文化財以外は中を見ることはできませんので、そういう時にお住まいを開放してもらって、アート展と併せて見てもらえる様にしようということでやりました。

興正寺のお寺も開放してもらっています。普段は開放はしていませんが、この時は1万人ぐらいの人が訪れていただいています。

杉山家の次に大きなお屋敷では、これは木綿関係のお仕事をされてたのですが、ここに城之門筋の通りがありまして、かなり意匠的にも蔵が重なって見えて、寺内町の大きな意匠の一つになっていると思うんですが、そういうところで、蔵の中を改造して茶室として作るなどして、ここは少し面白い形になっていまして、入口を入りますと両サイドが長屋みたいになっていて、ここにも人が住んでいたんですが、片側が全部出て行かれたんで、改造しようということになりました。最初はアートフェアで木工とかやってるんですけども、外観は元の形でやっています。中は茶室風なものを作って、奥が書斎で、書庫スペースになっています。

次の年に、住民でつくっている団体で、「寺内町を守り育てる会」というのがあって、それが10周年記念で、毎年、寺内町フェスタというのをやっています、この寺内町フェスタとクラフトアートフェアと一緒にして、そういうイベントにしようと、新たに次の年にしました。コンサートとか、まち角アートとか、軒下を利用してやったり、普段、開けてない住宅でも、照明の展示をしたりとかしています。

それから、寺内町交流館が2年前ぐらいにできましたが、その前が空地になっていて、板塀で囲っていた

時期があって、そのとき、ここにカメラ好きの人に投稿してもらって、いろんな写真を展示してもらって、来てもらって、見てもらおうということをやっています。この時もいろいろなところでイベントをやっていますが、当時、漆塗りの工房もありまして、今はないんですが、そういう工房さんが何かやったりしています。これは、勝間家住宅というのがありまして、土日だけ一般公開していますが、仲村家の分家として造られた家です。そこでもいろいろとやってもらっています。僕の家も開放しているときがあり、これは、中で町屋再生展をやっています。

それで、寺内町フェスタの10周年記念のときに、このころ寺内町燈籠というのをやりまして、燈籠を並べまして、守り育てる会に入っている住民の方が、好きな色で書いて並べていくというものです。当時は300基くらい並べてやっています。

それから、しばらくして、2006年から寺内市というのが始まっています。寺内市とは、寺内町に住んでいたたり、お店をしたりしている人、陶芸工房の方が委員長になってやっておられます。駅前からの商店街で市をやったり、中でやったり、それぞれ毎月第2土曜日にやってそれを続けることで認知してもらおうということから始まってやっています。町屋の中の土間を使って、雑貨を売っておられます。勝間家住宅でもやっています。この時はやっている人が、独自にいろいろ企画したりしてイベントをやっています。それで、この時はインテリア作家の人を旧杉山家に呼んで、アートのことをしてもらいました。それで、寺内町燈籠を寺内市とくっつけて、燈籠市というのを守り育てる会と一緒にやりました。このころはまだ300基くらい燈籠でした。この時はコンサートをしたりとかでたくさんの方が来られています。これは、寺内町交流館というのができたときに、始めました。

寺内市では、イベントばかりしていてもマンネリ化してしまうので、僕の方で雛めぐりというのをやって、お雛さんを見てもらうのに、町屋を開放してもらって、いろいろ見てもらうことをしようと思いました。商店街なんかはそれぞれお店のところでやってもらうといことでやってもらっています。

それをやった次の年から近鉄富田林の南口のところで、駅前の広場の整備というのが始まりでしたが、それでまちづくり協議会をつくって、いろいろな商店街の人とか地域の活動をしている人が集って、協議会をつくるということで、一番最初に寺内市でやっていたことも含めて、イベントも一緒に一まとめにしようということで、去年寺内市雛めぐりをやりました。

雛めぐりの社会実験でバナープロジェクトということで、アート作品を造っています。そういうことをしたりしています。そのとき我々は看板プロジェクトをしています。このときは新聞とかテレビとかに取り上げられていますので、かなりの人が来られています。

これは奈良の建築士会ががんばっておられる若手の方ですけども、檜の製材所の息子さんなんですけれども、木のことを皆さんに知ってもらおうと、サイコロを切って作ってもらって、子供にペーパーでサイコロを磨いてもらって、木の匂いがするのをかいてももらったりとか、そういうことをしながら木の良さを体験してもらおうと、言うことで、子供さんは結構喜んでいました。親は早く帰りたいみたいだったですけど。

しばらく開放していなかったギャラリーでは、芸大の美術大生の卒業展を3~4人くらいでやってもらいました。

僕の方の企画では、ちりめん人形細工を作っている作家の方が、北浜の青山ビルの中の事務所で作家活動しておられる方をお願いして、手作り教室、雛人形の少し小さいやつを飾ってもらったりして、だいたい毎年お願いしてやってもらっているのですが、こういう教室をしたりしています。独自にそれぞれしています。

去年、寺内町交流間の前に、蕎麦屋さんが10年以上前にずっとあったんですけど、それが閉じて、しばらくこのエリアの中では食べる場所がないような状態であったんですけど、金物屋があってそのご主人がなくな

って空き家になっていたところの長屋を利用して蕎麦屋さんと総菜屋さんと喫茶店が開業しました。

これは寺内町燈籠の去年のやつです（写真4）。橋元知事が、ミュージアム構想とかあって寺内町のことを言っておられた時期があって、その時に知事の燈籠を作られました。

寺内町では、年に4回大きなイベントをやっています。雛めぐりと寺内町燈籠、他に、鍋めぐり、アートひな祭りは、雛人形を虫干しして飾るという風習があるのですが、それをイベントに取り入れて、また、同じような感じで見せるということをしよとして始まったものです。

今年の始めに初めてやったんですけど、初鍋めぐりというのをやりました。これも鍋を巡って食べるというのですが、実際にはそんなに食べられませんので、ここがいいというのを選んで食べてもらうということで、僕ははりはり鍋をやりました。鯨の肉を使うので割高なのですが、全部完売しました。

それから、社会実験でいろいろな企画をして、鳥の目魚の目寺内町界限をやりました。これは社会実験ですので、報告書になっています。



（写真4）

それから、雛めぐりの時に、看板プロジェクトがあって、これも社会実験ですが、元々不動産屋さんが店をやっていて、そこに、看板を張っていったんですけど、それを撤去して、ファサードを変えて行こうというプロジェクトをやりました。材料は、河内長野から安く、実はあまり安くはなかったんですけど、提供してもらって、造ってファサードをやり替えました。で、雛めぐりの当日に、看板プロジェクトのワークショップで来た人に色塗りを手伝ってもらおうということをしました。あんまり皆興味を示しただけなかったんですけど、ほとんどお金をかけないような感じでやりました（写真5、6）。



（写真5）



（写真6）

たかなかじゅんさんという漫画家の方がいまして、最近版画をやっておられ、「約 30 年展」という版画展をやってもらいました。宮沢賢治の銀河鉄道とかそういうのも展示して、そういう中で版画展をやりました。5 日間くらい仕事を止めてやり、かなり大変でした。ご存知の方は、知っておられると思うんですが、絵が結構エッチな感じです。で、そういうのを、先ほどの瞑想室の中に置いておいて、見た人に、すごく感動を与えました。また、漫画家先生にも来ていただいてたんですが、やっぱりすごいファンの方がいらっしょるみたいで、その方は絵もたくさん持っておられました。それと同じ企画の中で寺内町交流館の中で、皆さんに版画作りをしてもらって、今年の年賀状を造りました。

最後ですが、これは計画している新築で、住宅なんですが、寺内町の中で、先程からのイベントとかを考えながら、地域的に開放できるようなものということで、これは、土間がずっとあるような感じで造っています。駐車場兼庭では、やっぱり開けても使えるスペースとして、ここも普段コートとして使えるようなスペースがあって、そのまま連続して奥に庭があるという感じです。2 階はプライベートなスペースで、屋上緑化をしてまして、伝建地区ですから外から見えないようにしていますが、これからは伝建地区でもエコとかが重要になって、ソーラーパネルとか出て来るといいますので、外から見えないようにすることでそういったことを役所に持って行って提案したんですけど、これは、実は 8 ヶ月くらいストップしたままになっていました。それは、屋上緑化をしているのが見える見えないという話と、実際に伝建地区では瓦屋根にしか造ったらだめやとかいう話があって、いろいろ協議して、最終的には OK が出ました。補助金も何も出ていないのですががんばって造ったなと思っています。今は棟が上がっています。

それで、今は町屋を利用しようとしてくれる人はないかとで、バンク制度みたいなものもできてる状態にはなっています。

というのが、寺内町の現状です。

以上、寺内町へ行かれることをお勧めします。(記録者)

写真の出典は、「建築士 2009.4 ((社)日本建築士会連合会)」。